

「自ら学び、かかわり、他と共に生きる子どもが育つ学校」

# コミュニティスクール協議会

令和6年5月31日(金)No.1

学校経営協議会会長

小平第十三小学校長

どうしたら人に対する信頼をもてるでしょうか

昔は近所の方がやってきて縁側でお茶を飲みながら語り合い、楽しいこともまたつらいことも分かち合いました。今は集まることも少なくなり、人に対する信頼も少なくなっています。政府の調査で「人が人に対して信頼をもてる」ためには多くの人と知り合っていることだとまとめています。コミュニティ・スクールでは人と人とのつながりを豊かにすることを目標にできたらと思っています。よろしくお願いします。(学校経営協議会会長)

令和6年度最初の学校経営協議会が、5月16日(木)に行われました。会に先立って、親カフェの運営と校舎の建替えについての説明がありました。その後、今年度の学校経営協議会がすすめられました。

## 0-1 「親カフェ」の今後の運営に等について

「よろず子育て相談カフェ」(通称「親カフェ」)を開催します。

6月8日(土)授業公開日 10:00~12:00 中校舎2階 会議室

詳細は別途、クラスルームにアップいたします。

## 0-2 校舎建替えに関する情報提供

現在、校庭の東側に校舎を新築する東側校舎案と、現在の場所に建替え北側校舎案の二つがあります。北側校舎案の場合、校庭に仮設校舎が必要になります。仮設校舎を建てる場合と建てない場合で、工事の工程が変わってきますといった説明がありました。

この後、質疑がありました。

Q: これまでの児童数の推移について、市が把握しているものを教えてほしい。

→開校当初は494人で、昭和51年をピークに減少。平成2年には305人まで減少した。

その後小川西町の区画整理により600名まで増加したが令和5年には396人に減少している。今後、令和17年をピークに減少する見通しになっている。

Q: 新校舎案の北側校舎案と東側校舎案があるが、どのような理由からか。

→北側校舎案なら仮設校舎が必要となる。

→東側校舎案なら校庭に校舎を建設するため仮設校舎が不要である。

→仮設校舎の建設には20億円の予算が追加が必要となる。

Q: プールの建設があるのか。

→プールを廃止して民間に委託する可能性があるが、現在この件は検討中である。

Q: 校舎の建替えそのものについて反対の意見は届いているか。

→署名などは届いていない。

## 1 令和6年度 学校経営協議会の構成と年間スケジュールの確認

### (1) 学校経営協議会の構成について

今年度は、新たに3名の方々に新規委員として着任していただき12名での運営となります。

十三小からは学校長がオブザーバーとして、教員からは宮澤優志主幹教諭（教務主任）、小杉喜彦主任教諭（生活指導主任）、学校経営支援主任の内野貴之教諭が参加します。

	学識経験者	白梅学園短期大学名誉教授	
	地域住民	学校支援ボランティアコーディネーター世話人	
	地域住民	青少対小平第十三小地区会長 主任児童委員	
	地域住民	小平市第2地区民生委員	
	保護者	小平十三小放課後子ども教室コーディネーター	
	地域住民	小平十三小 学校支援ボランティアコーディネーター世話人	
	その他	たいよう福祉センター所長 （小平市立障害者福祉センター）	
	その他	社会福祉法人緑友会 小川ホーム 施設長	
	保護者	小平第十三小学校 保護者と教職員の会 代表	★
	保護者	小平第十三小学校 保護者と教職員の会 副代表	★
	保護者	小平第十三小学校 保護者と教職員の会 副代表	★
	教職員	小平第十三小学校副校長	★

★新規委員 敬称略

### (2) 年間スケジュール

今後の学校経営協議会開催に予定については、以下の日程が確認されました。

【第2回】	7月17日（水）	16:30～18:00	
【第3回】	9月17日（火）	17:00～18:30	
【第4回】	11月19日（火）	17:00～18:30	
【第5回】	1月18日（土）	14:00～15:30	（道徳授業地区公開講座）
【第6回】	3月7日（金）	17:00～18:30	

## 2 令和6年度 教育課程について

校長より、教育課程の概要について説明がありました。学校の教育目標の実現に向けて、大きく三点の基本方針を示しています。

【教育目標】 ◎自ら考え行動する子ども ・仲良く助け合う子ども ・明るく元気な子ども

【学校の教育目標を達成するための基本方針】

- ・自らの個性をよさと認識して生かしつつ、多様な他者を価値ある存在として尊重し、将来に向かって自ら学び他と共に生きる児童を育成する。
- ・全教育活動を通して、他者と共に学び、認め合い高め合う豊かな心を育てる。

- ・健全育成や心身の健康づくりのために、望ましい生活習慣の定着を学校と家庭とが連携して指導に当たる。
- ・裸足の外遊びを市内で唯一実施できる全面芝生の特性を生かして、運動する楽しさを味わわせ体力の向上を図るとともに、自ら運動に親しむ資質・能力を身に付けさせる。
- ・コミュニティ・スクールとして広く学校をひらき、家庭・地域との連携・協働を通してかかわりを深め、家庭・地域と共に育てる拠点としての学校づくりを推進する。

### 3 学校経営方針について

令和6年度の学校経営方針について、校長より次のような説明がありました。全文は、学校ホームページ上でも公開しています。

過去2年間の経過を踏まえ、こどもたちだけでなく教職員・保護者・地域が「自ら学び、かかわり、他と共に」を共有し、自己の向上を求め続ける拠点としての学校というのが、本校の目指す学校像です。コミュニティ・スクールとして家庭・地域の求めや願いを受け止め、互いの連携・協同のより一層の推進を図ることを方針の中心に据えています。

保護者・地域が学校の教育活動に参加・参画する機会を積極的に設け、地域に根ざした特色ある学校づくりに努めること。そして学校の方針や教育内容、教育活動に関わる情報を発信するとともに、子育てに関わる啓発を積極的に行うことの二点を大切にしています。

昨年度は新たな教育活動を創造する「攻めの年」としましたが、令和6年度は、前例にとらわれず、全教育活動の活性化・改革化を図る「創造と構築の一年次」という方針を打ち出しています。

- ・地域・保護者にも教育活動に広く参加・参画していただく学校を目指しています。
- ・令和6・7年度、小平市教育委員会 研究推進校として特別活動の研究を推進します。
- ・教職員のライフワークバランスを重視し、昨年度は約8割の教職員が残業45時間以下、15日以上の年次有給休暇を取得しました。

### 4 校内人事

3名の転入者を迎えました。初任者2名（うち1名は産休代替）、市内でも比較的平均年齢が若い学校。若手の柔軟な発想と機動力で教育活動を展開していきます。

【平均年齢】 39.1歳（男38.1 女40.3）

### 5 令和5年度 いじめ重大事態の報告

昨年度発生したいじめ重大事態について報告がありました。

### 6 年間行事予定について

教務担当主幹教諭より説明がありました。学校ホームページ上でも公開しています。変更が入り次第、順次内容を更新していきます。

### 7 生活指導の重点について

生活指導担当より、十三小のやくそく（スマイル13）に沿って生活指導を進めていくこと、教職員間で定期的に情報の共有をして組織的な生活指導を進めていくことが報告されました。

## 8 協議

今年度の具体的な取組について協議され、以下のような点について確認されました。

### ★1 親カフェの運営に関して

- ・学校経営協議会委員が実行委員となって運営する。
- ・年間5回の実施で、初回は6/8（土）10時～12時 中校舎2階会議室で実施する。
- ・雰囲気づくりのためにBGMやお茶の提供なども検討する。
- ・次回の学校経営協議会（7月17日）に状況報告を行う。

### ★2 移動教室について ・尾瀬散策の準備を開始（6年）

5年生は5月21日（火）から一泊二日で八ヶ岳（野辺山）に宿泊します。初日は、農業実践大学校での体験を行います。

6年生は9月に日光・尾瀬移動教室を実施します。2日目には尾瀬散策を検討しています。6月20日に実踏調査を行います。

### ★3 地域の地域行事への参加 ～青少対まつりについて～

感染症も落ち着いてきたので、衛生的な管理ができれば、食べ物も販売したいという意見もありました。過去に餅つきなどの実演をした経緯もありますが、内容については今後検討していきます。

今年度は十三小の教員も参加します。プラバンなどのお店の手伝いをしてほしいという意見もあり、教員ブースの内容は今後検討して決定していきます。

よさこいの発表の場にしたいとの意見もありました。

### ★4 小平市教育委員会研究推進校としての取組

小平市内では、こだいら特活の日の実施など、特別活動が重視されています。これを踏まえ、十三小でも特別活動の抜本的な見直しと改善を行っていくことが報告され承認されました。

### ★5 学力の向上

昨年度から進めている理数系の学力向上について、算数学習ボランティアへの協力依頼を今後も続けていきます。

昨年度は、時間をかけて算数学習に取り組むクラス（じっくりコース）へボランティアの皆様に入っていただきました。今年度は中位層へも対応をシフトさせていきます。

算数ボランティアを1年生からはじめてもよいのではないかと意見も出されました。寄り添うだけでも子どもたちにとってプラスになることから、この点については要検討となりました。